



# PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

## 西日本決勝大会 1日目 結果 (佐賀)

### 結果のお知らせ

#### <PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 西日本決勝 1日目>

- ◇2016年4月2日(土) 天候: 晴れ
- ◇佐賀・若木GC (15-17歳の部男子 6645 ヤードほかカテゴリー別)
- ◇出場 148人

#### <PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 西日本決勝 1日目 概況> \*所属校・学年は2016年度。

15—17歳の部男子は、西脇まあく(大阪・興国高2年)が1オーバー73で回り、河本力(愛媛・松山聖陵高2年)に1打差で首位にたった。2打差3位に沢田新(石川・金沢学院高1年) 落合凌(香川・高松北高1年) 井上達希(神奈川・聖光学院高2年)が並び、混戦模様になっている。同女子では、奥山友梨(熊本・熊本国府高1年)が1オーバー73で首位発進。1打差で平岡瑠依(大阪・大阪学芸高2年)、2打差で昨年の世界ジュニア代表の園田結莉亜(大分・大分中3年)と後藤田寧々(香川・香川西高3年)が続いている。13—14歳の部男子は上久保拓海(京都・木幡中2年)が10メートル以上のバーディーパットを2発決めて3オーバー75で回り、松田正史(熊本・花陵中1年)に1打差でトップ。同女子では、昨年の世界ジュニア代表の長谷川せら(岐阜・稲羽中1年)と比嘉里緒菜(沖縄・嘉数中2年)が4オーバー76で首位を並走している。

大会は2日間 36ホールの合計ストロークで争い、15—17歳、13—14歳の部男女は各2人、11—12歳の部以下の男女各3部門は各1人が日本代表に選抜され、世界ジュニア(7月12~15日、米サンディエゴ)に出場する。

#### <PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 西日本決勝 1日目 ハイライト1>

##### ◇15—17歳の部男子◇第1日◇4月2日◇佐賀・若木GC(6645ヤード、パー72)

西脇まあく(大阪・興国高2年)が1オーバー73にこらえて、首位に立った。「コース設計者の言葉で、バーディーは取りにくいけどパーは取れるって書いてあったので、その通りだと思いました」という。2, 4番でボギーが先行したが、5番でバーディーを取った後は16番までパーをセーブ。17番で8メートルのバーディーパットを残したが、同伴競技者のアプローチが「自分のラインとほぼ同じだったのでラッキーだった」と、2つ目のバーディーにつなげた。

1月の沖縄予選からの進出。「時間があったので、試合にいくつか出て調整した」という。パットが得意で「このコースは外してもアプローチ、パットで拾えるので好きです」という。最終日も「狙って取れるコースじゃないので、我慢してチャンスを待ちたいです」と、無理せずに世界を目指す。

#### <PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 西日本決勝 1日目 ハイライト2>

##### ◇15—17歳の部女子◇第1日◇4月2日◇佐賀・若木GC(6204ヤード、パー72)

奥山友梨(熊本・熊本国府高1年)が安定したゴルフをみせて1オーバー73で回り、首位スタートを切った。「ショットがよくて、取れそうだったところでバーディーが取れた」と振り返る。インスタートの13番で2メートル、15番で4メートル、5番パー5では第3打を1メートルにつける3バーディーを奪い、チャンスを確実にものにした。ドライバー飛距離が250~260ヤードと「飛距離が出る方なので、飛ばして、チョコンを打ってチャンスにして簡単にバーディーが取れるゴルフが目標」という。まだパターに不安があるので「そう簡単にはいきません」と笑った。決勝大会には初めて進んできた。「予選は3回ぐらい出たんですけど、やっぱりうまい人がいっぱいいると思った」という中での首位。「自信はあんまりないですけど、最終日はバーディーをたくさん取りたいです」と、思い描いていた。

## < PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 西日本決勝 1日目 ハイライト3 >

### ◇13-14 歳の部女子◇第1日◇4月2日◇佐賀・若木GC (6204 ヤード、パー72)

長谷川せら（岐阜・稲羽中1年）と比嘉里緒菜（沖縄・嘉数中2年）が、4オーバー76で首位に並んだ。長谷川は「12個もバーディーパットを逃した。全部3メートルぐらい。ショットがよかったのに、心が折れました」と、唇を尖らせた。インスタートの最終9番でその3メートルが「ようやく入って」1バーディー。2013、15年と世界ジュニア代表になっており、今回は3度目の代表入りを狙う。「ショットはそのまま、パターが入るようにしたい」と最終日をにらむ。一方、比嘉は3年連続の決勝大会で初の日本代表を目指す。インスタートの15番パー3で「5番アイアンでOBにしてしまって」とダブルボギーが先行したが「アプローチがよかった」と、グリーンを外したうち6回を1パットのパーでしのいだのがスコアにつながった。「今度こそ世界に行きたいです。去年よりは自信があります」と、こちらは3度目の正直を目指す。



写真： 左上／西脇まあく（15-17歳の部男子）、右上／奥山友梨（15-17歳の部女子）、  
左下／長谷川せら（13-14歳の部女子）、右下／比嘉里緒菜（13-14歳の部女子）

写真クレジット：© I J G A 2 0 1 6